

# WASLI会報 2009年2月



## 今月号の内容：

- ・トーゴ共和国におけるろう者の状況と手話通訳
- ・マダガスカルからのニュース
- ・NAOBIからのニュース
- ・ろう者と人権：包括レポート公表
- ・フィジーろう者協会：全国ろう者週間啓発プログラム
- ・手話通訳指導者会議が通訳者教育雑誌を創刊
- ・第1回応用手話言語シンポジウム

## トーゴ共和国におけるろう者の状況と手話通訳



トーゴろう者協会 (AST)

Eメール: [sourdstogo@gmail.com](mailto:sourdstogo@gmail.com)

首都：ロメ

言語：フランス語（公式および商用言語）、エヴェとミナ（南部地域で使用されるアフリカ語の主な2つ）、カブレとダゴンバ（北部地域で使用されるアフリカ語の主な2つ）

通貨：CFAフラン (XOF)

(原典: <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/to.html>)

トーゴは西アフリカの沿岸の国である。国土は56,785平方キロで人口は6,000,000人である。トーゴはもっとも開発が遅れている国の1つである（1人当たりの所得は350ドル）。

90年代からこの国は経済危機に見舞われている。政治的には支持者の援助で抜本的な修復を行った。しかし、2006年8月の政治的合意の署名に基づき、国にとって喜ぶべき可能性がうまれた。

この困難な時期、人口の10%を占める障害者に対する施策はほとんどなかった。障害者のなかでも、ろう者はすべての分野（決定場面、開発プログラム、教育政策など）から排除される対象となっている。

ろう児は一般校に登録できない。たとえトーゴが「児童の権利条約」、Jomtien会議（1990年）および障害児の教育権についてのダカールEPT行動計画（2000年）に同意していたとしても、インクルーシブ教育の方針はない。障害児はなおざりにされており、ろう児はとくに著しい。ろう児教育を保障するための専門施設はあるが、資金は限られており一般校との連携もない。トーゴにはろう児のための施設は6つしかなく、約400人のろう児が教育を受けている。

トーゴのろう者の約95%は読み書きができず、極貧の中で生活している。彼らが労働力として国家プランで明確にされていないにもかかわらず、学校と社会生活はすべての局面において警報を発しているのは明らかな事実である。

あらゆるところでろう者は強い差別を経験している。保護組織へのアクセスや教育を受けることは困難で、そして彼らの社会経済への融合は強く阻害されている。不幸なことに彼らの多くは物乞いになり、少年・少女は非行に走り、聞こえないことに起因するコミュニケーションの困難から孤立してしまう。

ろうの少女やと女性はしばしば性的虐待の対象となる。彼らは配偶者を選ぶとき何が信頼できるふるまいであるかの情報を得ることができていない。彼らは自分の体について知識がなく、体の作用や防御の仕組み、また生殖作用についても知らない。

不当な罪の意識、悲しみと怒り、孤立、反感などをトーゴのろう者は日々味わっている。ろう者を支援し、そのニーズを聞きとるのは長い時間がかかるが、心弾む作業である。耳が聞こえないことはとくに扱いにくい感覚障害であるのは事実だが、私たちは誰かが正しく彼らとかわかることによって重大な進展があると考え。忘れられ、さげすまれているろう者が満足を得ることは、無条件に必要である。そして、このことは彼らの基本的な教育、通常の訓練、よりよい社会参加をもたらすであろう。

今日、ろう運動による成果は顕著である。これらの運動によってろう者の才能と可能性が見出された。テレビは何度も取り上げ、安定した生活が送れるろう者は少ないが、テレビとラジオが聴覚障害といくつかの豊かな地域での手話の認知に注目したおかげである。

しかし、まだ多くの課題が残されており、一般の家族や地域社会は聴覚障害は多くの人たち、とくに家族にとって容易なものではないと思われている。障害者を保護する法律はまだない。ろう者の人権はトーゴでは存在しない。

これは、手話通訳者も同様である。通訳が必要な時、ろう者やその両親はろう教育専門の教師がいるろう学校に直接連絡している。教師は無償のサービス提供のため、時には教室を離れる。しかし、残念ながらこれらの決定を下す立場の人やろう学校の教師たちは、職業としての倫理綱領を知らない。長期の（5から7日間）セミナーやミーティング、会議のとき、内容は正確に伝わらない。

長時間にわたるろう者と健聴者との通訳で、通訳者は疲れ、のども渇く。そこで彼は、休息のため30分間通訳を中止して休憩する。報酬はよくないが、感謝される。だからこそ私たちは通訳者の組織をつくる必要があると考えている。

以上が、私たちの将来の運動計画である。

## マダガスカルからのニュース



国土： 587,040 平方キロメートル

人口： 20,042,552人

首都： アンタナナリボ

言語： 英語（公用）、フランス語（公用）、マダガスカル語（公用）

GDP： 1,100ドル

(原典: <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/ma.html>)

マダガスカルには資格はないがマダガスカル手話を知っている健聴者が10人いる。彼らは、アンタナナリボ、マハジャンガ、フィアナランツォアの病院で働いている。4人はアンタナナリボから来ており、2人は大学のボランティアで、1人はプロテスタントの牧師である。彼らは1年間学び、学習が継続できるなら認定通訳者になれる。



アンタナナリボ、2008年12月11日



マダガスカルろう連盟（FMM）会長は会議で次のことを表明した。ノルウェーろう連盟への感謝、保健省への感謝、アカマ氏へ10人の通訳者教育への感謝、ESTIIM大学のコミュニケーション教育への感謝、そして手話を教えたろう者への感謝である。この会議で政府に対し、通訳者への報酬、FMM事務所の用地、法令へのマダガスカル手話の明記、ろう児への教育を要請した。



（写真）アンタナナリボ地域の代表、アンタナナリボの病院のリーダー、そして保健省の代表

## NAOBIからのニュース

リーンドラ・ウィリアムス

全国黒人通訳者同盟 (NAOBI, Inc.)

NAOBI理事と会員は、アントニオ・グッドウィンが次期会長となることを報告する。

アントニオはサウス・キャロライナ出身だが、現在南カリフォルニア在住である。彼はインディアナ大学を卒業し、民族音楽とくにアフリカ系アメリカ人の信仰と音楽に専念し、民俗学の修士号を取得している。2001年12月に、アントニオはバンダービルト大学法科学学校とD&M神学校との共同学位プログラムを法務博士と修士で修了した。彼の専門は訴訟、社会政治的擁護と倫理である。バンダービルト在学中、神学校と法科学学校ではアフリカ系アメリカ人の文化、政治的特質、思考の基本的要素に集中していた。ルネッサンスワングループLLCという彼の会社は、いくつかの子会社を持つ親会社である。その子会社の1つがアメリカ手話情報、通訳、擁護を提供している。別の会社のアントニオグッドウィン.comは訓練、指導を中心に行っている。会社の非営利部門であるエンパワメントトレーニング研究所では13歳から19歳までのティーンエイジャー向けのティーンカリキュラム「通訳のある生活」を進めている。アントニオは通訳と翻訳の全米登録手話通訳者協会認定を有している。

アントニオは2008年12月に事務所に所属することを誓約し、2009年1月から2年の任期を開始した。アントニオはNAOBI,Inc会長として2人目の男性である。初代会長はギャローデット大学の卒業生ではないので、アントニオは西部地域から選出された初めての会長ということになる。

しかしながら、彼の就任は非常に期待されている。組織としてわくわくしているし、グッドウィン社長は私たちの前進に必要な改善を開始すると約束してくれている。しかし、確信しているのは、ここ数年来の他組織との協力・共同の展開の継続である。NAOBIの組織目標と目的は変わらない。

2009年1月からアントニオ会長宛てのメールは次のアドレスに。 [president@naobi.org](mailto:president@naobi.org).

この情報は遠慮なく流してください。NAOBIの新しい顔への支援をお待ちしています。

## ろう者と人権：

## ろう者の解放に関する包括レポート

コリン・アレン、プロジェクト責任者

ろう者の人権に関する世界教育準備プロジェクト

スウェーデンろう連盟および世界ろう連盟

世界ろう連盟とスウェーデンろう連盟は、研究者のヒルデ・ハウアランド女史とろう者の人権に関する世界教育準備プロジェクト責任者のコリン・アレン氏が書いたレポート「ろう者と人権」を発表することを光栄に思う。

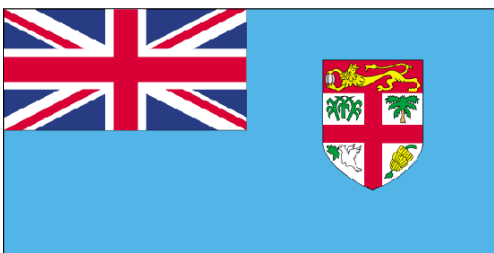
この「ろう者と人権」レポートは、ろう者の状況研究データでは最大の調査に基づいている。そのほとんどが発展途上国である93カ国でのろう者の暮らしが書かれている。スウェーデンろう連盟および世界ろう連盟が、国際スウェーデン国際開発協力局 (Sida) とスウェーデンの障害者組織の国際援助団体 (Shia) の資金援助を得て調査を行った。

このレポートの英語版をダウンロードしたい人は、世界ろう連盟のホームページから簡単に取り出

すことができる。<http://wfdeaf.org/projects.html>。来週には、同ホームページで国際手話のDVDが見ることができる。国際手話DVDを希望の方は、添付の申込用紙に記入し世界ろう連盟事務局に送ってほしい。このレポートと申込用紙をあなたの組織に配布してほしい。アドレス：

[DeafHumanRights@yahoo.com.au](mailto:DeafHumanRights@yahoo.com.au)

## フィジーろう者協会：全国ろう者週間啓発プログラム



面積： 18,270 平方キロメートル

人口： 931,741人

首都：スバ

言語：英語（公用）、フィジー語（公用）、ヒンデゥスターニー語

GDP： 3,700ドル

通貨：フィジードル (FJD)

(原展：<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/fj.html>)

フィジーろう者協会（2002年創立）は、ろう者を支援する一連の活動を展開してきた。

### 役割（使命）

ろう者に平等な機会を提供することによってろう者一人ひとりが持つ要求が保障でき、社会の中で対等に生きることができる。

### ビジョン声明

我々は強力で適切に組織され、十分に整えられた団体をめざし、ろう者が自国で対等平等な市民となることを主張する。

全国ろう者週間啓発プログラムは、昨年刑務所で全国ろう者週間についての提案をしたことから始まり、目標を達成した。我々はろう者として認識のため通訳サービスを提供した。我々は、週間を通し、カソリック教育大学での職員および学生対象の発表など様々な活動を展開する。全会員と特



テントにはポスターなどの展示も

別学校、そして普通学校に通っている生徒たちが行進に参加した。このことは公的および仲間からの大いなる支援が得られることを示しており、いい兆候であった。



通訳者たち

啓発週間は2008年9月28日から10月3日まで行われた。行進は、我々の高校生が発表を行ったスクナ公園で最終日にあり、中等教育校長が来賓で出席した。彼は、生徒やろう者の情報獲得に対して通訳者が重要な役割を果たしているという政府の認識で、通訳者の報酬は注目されつつあると確信していると述べた。

テーマは「手話と教育」

テントには、会員たちの活動を示す図表やポスター、例えば辞書研究ワークショップ、スポーツおよび他の教育的な収集資料などが展示された。フィジー手話辞典は販売され、パンフレットが配られた。この週間は大成功だった。メディアは障害者としての生活、人権についての知識、そして健常者と同じようにどれだけ多くのことが成し遂げることができるかなど取材した。



ろう者啓発組織委員会

## 通訳指導者会議（CIT）が「国際通訳者教育ジャーナル（IJIE）」創刊

通訳指導者会議は「国際通訳者教育ジャーナル」の発刊を宣言する。高く期待される雑誌は、学生、通訳者、研究者そして教育者が関心を持つ内容を掲載する。編集者は、オーストラリアのシドニーにあるマクォーリー大学の首席講師であり、翻訳・通訳プログラムコーディネータでもあるジェマイナ・ネピア博士である。

CITは、アメリカ手話通訳者養成担当者間の情報交換を促進するために2年に1度開催されている大会を経て、1979年に設立された。年月を経て、CIT会員は手話および音声言語通訳者と養成担当者の国際団体へと発展した。CITと国際通訳者および養成担当者の協力は、濃密な仲間関係と通訳に関する多くの研究論文出版に結実した。直接的な結果として、通訳養成について専門家同士で学問的に評価した雑誌が求められることがますます明白になった。

### 目標と範囲

IJIEは、第2言語習得、通訳訓練、プログラム管理、事例研究、養成理論などを含めた効果的な開発や通訳養成の伝達などをめぐる出版物や基本方針（原則）を掲載する。

### IJIE の将来計画：

ろう啓発組織委員会

研究項目：多様な訓練（言語、教育、人類学など）に代表される通訳養成に関連しての実証に基づく研究、および方法論（質的、量的、行動、および観察に基づく）。

論評：未来の通訳者養成課程において、現在通訳者たちの技術の維持において、あるいは通訳者養成担当者の専門性の向上などに顕著な進歩を実現させた教育者の意見。この分野においては、私たちは、通訳研究者、指導者が関心をいただくような情報に関してのオリジナルな本やカリキュラム論評を歓迎する。

公開フォーラム：発行可能な指導的な学者へのインタビュー、通訳者教育や訓練の理解や分析を深める討論会やケーススタディの書き起こし原稿。

学術論文要旨：通訳者教育と関連テーマの博士及び修士論文の要旨。

この雑誌はオンライン形式で2年に1回発行されるが、印刷物としても発行する。これは、手話通訳者指導者会議に間に合うよう、2009年11月に発行予定。

編集委員は国際的な視野を持ち、音声及び手話言語を代表するろう/健聴通訳教育者と研究者で構成される。

IJIEに関する詳細は、<http://www.citasl.org/journal.html>にアクセス。

## IJIE論文募集（2009年3月30日まで）

現在、この新刊書の編集者は2009年11月発刊に向けて、報告書など募集中。詳しくは、通訳指導者会議ウェブサイトをご覧ください。 [www.cit.asl.org/journal.html](http://www.cit.asl.org/journal.html)



フィジーろう者啓発週間

## 応用手話言語学第1回シンポジウム： “手話の学習と指導”



University of  
BRISTOL

2009年9月26日

2009年9月24, 25日 - プレ会議セミナー

発表論文及びプレ会議セミナー募集

私たちは、イギリス、ブリストルにあるブリストル大学のろう研究センター主催の第1回応用手話言語学セミナー開催を発表するものである。このシンポジウムの目的は、応用手話言語学分野の台頭に伴う学術的な最初の討論である。論議を進める論点は次の通りである。

- ・ 応用言語学理論が手話の指導と学習の研究や実践に、どのように影響を与えるか。

### 基調講演

I ヴィヴィアン・クック教授：イギリス、ニューキャッスル大学、教育・コミュニケーション・言語科学学部

II リチャード・キーリー博士：イギリス、ブリストル大学大学院教育学部

論文要旨は口頭、ポスター発表、そしてプレ会議セミナーでも、下記のように参加できる。

テーマ領域：

1. 手話学習と指導
2. 第1言語／第2言語としての手話習得
3. ITと手話学習
4. 手話試験及び評価
5. 手話言語学の応用
6. 談話分析

応用言語学のどの分野に関連するか、論文を検討する。

- ・ 論文要旨の提出期限：2009年3月31日

- ・ 採用通知：2009年5月

論文要旨は Maria Mertzaniに送付のこと：[M.Mertzani@bristol.ac.uk](mailto:M.Mertzani@bristol.ac.uk)

シンポジウムの公式言語は、イギリス手話 (BSL)及び英語

問い合わせはMaria Mertzaniまで：[M.Mertzani@bristol.ac.uk](mailto:M.Mertzani@bristol.ac.uk)

## 重要事項

WASLI 理事会や外部からの寄稿者とともにこのニュースレターは作成されている。WASLI は発信した情報の信頼性を確保するように努めるが、発信された内容の正確性や意見についての責任は一切負わない。出典さえ明らかにすれば、このニュースレターで発信された情報を他の場所でも使用することができる。しかし、WASLI の公的な写真を使用する場合には [secretary@wasli.org](mailto:secretary@wasli.org) まで連絡し、許可を得なければならない。

寄付のお申し出は [austroceania@wasli.org](mailto:austroceania@wasli.org)

メールアドレスの変更は、[secretary@wasli.org](mailto:secretary@wasli.org) まで。

## WASLI 理事会

リズ・スコット・ギブソン（会長）；ファン・ドゥルエッタ（副会長）；ゼイン・ハマ（事務局長）；ダニエル・バーチ（会計） 会計

## 地域代表

市川恵美子（アジア）；ジョージ・メジャー（南洋州オセアニア）；フィレモン・アカッチェ（アフリカ）；セルマン・ホティ（バルカン）；マルコ・ナルディ（ヨーロッパ）；ホセ・ルイス・ブリエバ・パディラ（ラテンアメリカ）；デブ・ラッセル（北アメリカ）；アンナ・コマロワ（ロシア・コーカサス・中央アジア）